

# SDGs BOOK

COOP SAPPORO



- 環境活動報告
- 組織概要
- SDGs 対比表

## 2022



### 活動報告

#### 人と人／人と食／人と未来

都市型店舗やまはな店オープン  
組合員190万人達成  
大学生育英奨学金  
コープさっぽろ農業賞  
高校生チャレンジグルメコンテスト  
スイーツ新ブランド「トヨヒコ」  
店舗電力再エネ100%目標  
AI自動発注システム導入  
セミナーフレンジ導入ほか

何だろうか？

### 北海道のために コープができることで

#### 浜田敬子×大見英明

ジャーナリスト コープさっぽろ理事長

### 対談

類似町スクールランチ、マイボトルエコアクション  
食べる・たいせつフェスティバル2021  
コープ未来の森プロジェクト

## 特集

### 北海道の「生活インフラ」 としての挑戦。

答えは03ページ下にあります。

## 問題.

コープさっぽろが取り組んでいるのは、どれですか？  
当てはまるものに  をつけてください。

※新型コロナウイルス感染症の影響により延期・中止している取り組みもあります。

- |                                       |  |                                   |                                  |
|---------------------------------------|--|-----------------------------------|----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> おいしいお店       | <input type="checkbox"/> 宅配              | <input type="checkbox"/> 共済       |                                  |
| <input type="checkbox"/> 電気ガス灯油お届け    | <input type="checkbox"/> 過疎地へ販売車         | <input type="checkbox"/> おいしい給食   | <input type="checkbox"/> 旅行      |
| <input type="checkbox"/> お葬式          | <input type="checkbox"/> 夕食お届け           | <input type="checkbox"/> 文化教室     | <input type="checkbox"/> 募金活動    |
| <input type="checkbox"/> 年数千本単位の植樹    | <input type="checkbox"/> 出産お祝いに育児グッズ無償提供 |                                   |                                  |
| <input type="checkbox"/> 大学生へ給付型奨学金   | <input type="checkbox"/> 1～2歳児へ絵本4冊無償提供  |                                   |                                  |
| <input type="checkbox"/> 親子の無料あそび場提供  | <input type="checkbox"/> とにかくエコ活動        | <input type="checkbox"/> お魚調理の教室  |                                  |
| <input type="checkbox"/> がんばる生産者さん表彰  | <input type="checkbox"/> 子どもお仕事体験        | <input type="checkbox"/> 畑でレストラン  |                                  |
| <input type="checkbox"/> 食育のための大規模フェス | <input type="checkbox"/> 高校生グルメコンテスト     | <input type="checkbox"/> 高齢者宅を見守り | <input type="checkbox"/> 認知症予防活動 |
| <input type="checkbox"/> おいしいお水作り     | <input type="checkbox"/> おいしい食パン作り       | <input type="checkbox"/> 障がい者積極雇用 | <input type="checkbox"/> 河川海岸の清掃 |
| <input type="checkbox"/> 宇宙ロケット開発     |  |                                   |                                  |

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

2030年に向けて世界が合意した「持続可能な開発目標」です

SDGs(持続可能な開発目標、Sustainable Development Goals)は、2015年9月に国連サミットですべての参加国が合意し採択された、2030年に向けた世界共通の目標です。すべての人が持続可能な社会の中にあり、経済・社会・環境が一体となって向上した未来を実現するための具体的な目標として17のゴールが設定されています。

### コープさっぽろSDGs BOOKについて(編集方針)

コープさっぽろは、2005年から「環境・社会貢献報告書」、2007年から「CSRレポート」の発行を続け、多様なステークホルダーの皆さまの関心に応える情報開示を続けてきました。現在、2030年に向けて世界的にSDGs(持続可能な開発目標)の取り組みが加速しています。コープさっぽろは北海道においてSDGsを推進することを目標としており、「事業」「組合員活動」の両面でSDGs実現に向けた課題解決を推し進めています。その活動の一部ではありますがここにお伝えし、皆さまにも持続可能な社会について考えていただくきっかけになれば幸いです。

● 報告対象期間/  
2021年度の主な活動を中心にまとめていますが、補足的に当該年度以前の情報、2021年度以降の継続的な活動や将来の目標も報告しています。また、事業概要は2022年3月20日現在のものです。

● 発行年月/2022年5月発行  
次回は2023年5月の発行を予定しています。

● ホームページ/<https://www.sapporo.coop/>  
(当該情報に関するホームページの公開は、2022年6月を予定しています)

● お問合せ先/生活協同組合コープさっぽろ 組織本部 広報部  
〒063-8501札幌市西区発寒11条5丁目10-1 TEL 050-1741-5516



# INDEX

## 特集1

### 北海道の「生活インフラ」としての挑戦

- 05 | CASE01 様似町スクールランチ
- 08 | CASE02 マイボトルエコアクション
- 11 | 食べる・たいせつフェスティバル2021
- 11 | コープ未来の森プロジェクト

## 16 | コープさっぽろ事業MAP

### 人と人

- 18 | 都市型店舗やまはな店オープン
- 18 | ちびっこコープデー・ゴーゴーコープデー
- 18 | 組合員190万人達成
- 19 | 宅配システムドック
- 19 | 夕食宅配サービス
- 19 | 移動販売車 おまかせ便カケル
- 19 | 高齢者・独居世帯見守り活動
- 20 | ひとり親家庭高校生 育英奨学金事業
- 20 | 大学生育英奨学金
- 20 | 職員奨学金返済支援制度
- 21 | 大学生 食品・日用品支援
- 21 | 動物園・水族館応援募金
- 22 | 困りごとお手伝いサービス こまるとCOOP
- 22 | 高齢者体操教室
- 22 | 地域まるごと元気アッププログラム
- 22 | コープの家族葬
- 22 | 障がい者雇用

### 人と食

- 23 | コープさっぽろ農業賞
- 24 | 畑でレストラン・畑でWedding
- 24 | 高校生チャレンジグルメコンテスト
- 24 | 自炊塾・アニマドールプロジェクト
- 25 | ラベルレスの水販売
- 25 | 北海道純米吟醸酒 北乃覚醒発売
- 25 | スイーツ新ブランドトヨヒコ
- 25 | 冷凍総菜 グルメストック自由時菜
- 26 | 大惣菜化プロジェクト
- 26 | プライベートブランド なるほど商品

### 人と未来

- 27 | 店舗電力 再エネ100%目標
- 27 | AI自動発注システム導入
- 27 | セミセルフレジ導入
- 28 | SDGs研究会
- 28 | 子どもの遊び場 トドックステーション
- 29 | 資源回収収益で子育て支援
- 29 | えほんがトドック
- 29 | トドックフードキャラバン

## 30 | 環境活動報告

- 32 | コープさっぽろ組織概要
- 35 | SDGs対比表

## 特集2

### 北海道のために コープができることって何だろう？

- 12 | 浜田敬子×大見英明対談

## つなぐ、その先に。

コープさっぽろは50周年を機に

100周年を展望して「つなぐ」を合言葉にしました。

そして私たちは

「人と人をつなぐ」「人と食をつなぐ」「人と未来をつなぐ」

この3つを活動領域として事業を展開してきました。

同時に、「販売」だけではなく、「流通」「製造」といった

さまざまな機能を自前化し、つないできました。

つないだ結果、いろいろなことができるようになりました。

お店が撤退した地域に、移動販売車でお店を届けることができます。

商品を届けた戻り便で、資源、みや古着を回収することができます。

玄関まで食事を運び、家族に代わって安否確認することができます。

もつとほかにもあるはずですよ。

私たちは今、つないだ先に「つなぐ」を「生懸命」考えています。

組合員さんのために、北海道のために「つなぐ」には何か？

だから声を聞かせてください。

きこつてあるはずですよ。私たち「つなぐ」は「つなぐ」です。



50周年を機に「つなぐ」の合言葉を入れた新ロゴマークが誕生。

組合員さんや職員の強い願いと思いから生まれた新しい取り組みに掲げる「安心」と「革新」の旗印です。

安全・安心を感じ、新鮮で若々しく、生命力を感じるコープグリーンを全道へ広げていきます。

## コープさっぽろの伝言（新理念体系）

コープさっぽろの合い言葉

つなぐ

コープさっぽろの理念

北海道で生きることを誇りと喜びにする

コープさっぽろの使命

「安心」と「革新」

各事業の考え方

「店舗」……………いのちの基本である「食」を大切にする。

「宅配トドック」……………笑顔をとどけ、笑顔をいただく。

「移動販売車カケル」… どこまでも買物の楽しさと便利さを載せて行く。

「社会給食」……………健康と成長を見つめて行く。

「エネルギー」……………北海道で自立して持続可能な再生エネルギーを推進する。

「水工場」……………北海道のかけがえのない資産を預かっている。

「共済」……………助けあいの心をひとつにする。

「フリエ」……………家族のひとりとなり、家族のひとりをお見送りする。

「トラベル」……………人生という旅をさらに豊かにする。

「生活文化事業」……………学ぶ喜びを生涯の楽しみにする。

コープさっぽろが大切にすること

わかちあう  
まなびあう

ささえあう  
ふれあう

おもいあう  
たたえあう

たすけあう

# 北海道の 「生活インフラ」 としての挑戦。



いまだ、  
新型コロナウイルス感染症拡大の  
終わりが見えません。

変容した生活が  
日常と化していった2021年も、  
私達が大切にしたのは  
「北海道の生活を守る事」。

組合員さんへの変わらないサービスと、  
この環境下で困窮する  
人々への支援です。

北海道の生活インフラを担う  
コープさっぽろは、  
この1年どこまで  
チャレンジできたでしょうか。

## 様似町スクールランチ ～子ども達に温かい昼食を～

長年にわたる町民の  
願いだった「給食」

「学校に日替わり弁当を届け  
てもらえますか」。それが様似町  
からいただいた最初のご相談で  
した。様似町の坂下一幸町長(当  
時)が在任した16年間で、町民アン  
ケートをとるといつも一番希望  
が多かったのが学校給食でした。  
しかし現在の町では、人口減少  
による税収減が続く中で、学校  
給食施設の建設費や人件費の捻  
出、さらにその維持はかなり厳  
しいものがありました。そのため  
長い間、子ども達は学校へ弁当  
を持参して、町からは牛乳を支  
給する「ミルク給食」を続けてき  
たのです。そんな中、様似町は民  
間の配食サービスに着目し、指  
名型「プロポーザル」で参加を募  
集。全道に配食サービスを展開  
しているコープさっぽろは様似  
町とお話を進めるうち、「弁当よ

り、せっかくなら子ども達に温か  
い昼食を食べてもらいましょう」  
とご提案しました。そうして  
2021年7月初旬に様似小  
学校、様似中学校へスクールラン  
チをご提供することが確定。  
元々様似町とは災害時物資供  
給協定や高齢者見守り協定を  
締結していましたが、これを機に  
同年9月、さらに「まちづくり」  
にも踏み込んだ包括的な連携協  
定を結びました。

スクールランチのご提供が確  
定してから、スタートまでの期間  
は約2カ月弱。短い期間で、食器  
や備品準備、献立の作成、注文シ  
ステムやスクールランチ代金の  
回収代行の準備は急ピッチで進  
めました。しかしその間にも、教  
職員・保護者の方々にスクール  
ランチについてきちんと理解し  
ていただくこと、説明会や試食  
会を数回にわたって実施。何度  
も足を運ぶ中、試食で子ども達

が初めてカレーライスを食べた  
時の笑顔は、コープさっぽろ職  
員たちのやりがいにつながりま  
した。厳密に言うところのスクー  
ルランチは、給食専用給食セ  
ンターを設けていないことなど  
から、学校給食法に定められた  
「給食」ではありません。しか  
し保温保冷した状態で学校に届  
けられ、栄養にも配慮したスク  
ールランチは子ども達にも保  
護者にも大変喜ばれ、9割以上  
の方にご利用いただいています。



町とお話を進めるうち、「弁当よ



様似町とコープさっぽろは包括的連携協定を締結。9月13日よりスクールランチ事業がスタート

● ご飯や汁物、おかずを温かい状態でセット



● 加温庫に入れ、適温の状態で届けます

加温カート(65°C以上を保持)/カレー、麺類、おかずに使用  
冷蔵カート(10°C以下を保持)/サラダなどに使用



● 温かい食事が実現。低学年・高学年・中学生用3パターンで量目を変えて対応しています



使い捨て容器は  
使用しません

## 温かい食事を 温かく食べてもらう。

コープさっぽろが様似町のスクールランチを手掛けるにあたり、最もこだわったのが「温かい昼食」。お弁当にはお弁当のおいしさがありますが、やはり適温で食べられることは「給食」の醍醐味であると言えます。

コープさっぽろは独自の配食サービスの仕組みを利用して、様似町へは帯広工場からトラック1台で片道130kmかけて配送。その間も冷めることなく食事を届けられるのは、配食用の加温庫を使い、保温・保冷した状態で運んでいるからです。配食工場は全道に7カ所あり、幼稚園給食、組合員向け配食、施設調理受託、病院調理受託、保育園調理受託の実績を持っています。そのノウハウを生かしてのスクールランチであったため、短期間でも「給食的な」食事を実現することができたのです。



■ 配食実績

幼稚園給食	全道70園	4,300食/日
組合員向け配食		6,000食/日
施設調理受託	6件	1,250食/日
病院調理受託	1件	600食/日
スクールランチ	1件	220食/日

(2022年2月現在)

■ 工場



他市町村からも  
ご相談が次々に  
様似町でのスクールランチの  
取り組みは、子ども達からの  
「おいしい」はもちろん、保護者  
の方々からも「お弁当調理の負  
担がなくなって助かっている」  
との声を頂いています。何より、  
様似町にとって長年の願いだっ  
た「給食的な昼食」を子ども  
達に提供できたことは、「北海  
道の生活を支えていきたい」と  
いう使命感を持って働いている  
職員たちにとっても嬉しいこと

でした。今後は細やかなアレ  
ルギー対応や、食育に関する取  
組みも強化する予定です。様似  
町のスクールランチ成功を受け  
て、同様の問題を抱えている他  
の市町村からも多くのご相談  
をいただいています。給食施設  
がない、もしくはあっても老朽  
化が進みその改修・維持が難し  
いと悩む市町村はたくさん存  
在します。全道各地に配食工場  
を持つコープさっぽろは、  
2022年4月から2つの自  
治体へ新たにスクールランチを  
提供する準備を進めています。

## 食育への取り組み

スクールランチの提供のみにとどまらず、食を通して子ども達の心身の育成にも貢献するため、食育にも積極的に取り組んでいます。

ひとつは「食育だより」。現在も毎月1回出していますが、今後は年間で掲載スケジュールを立てて、月2回ペースで発行していこうと検討しています。またコープさっぽろの栄養士が学校へ出張し、食育授業も行っていきます。

もうひとつは「地産地消」。その大切さを伝えるため、現地食材の活用にも力を入れています。これまでも鮭(銀聖)やお米、昆布(素材、だしなどに使用)などを使ったメニューを組み込んでいますが、今後はさらに様似町産のお米を通年で活用できるように調整しています。



様似町産の天然秋鮭「銀聖」を使ったメニュー。ほかにも、さめかレイやいちご「すずあかね」など地元食材を取り入れています



献立表と食育だより。献立には全て栄養・塩分・アレルギー成分を明示



様似町給食  
小中学校合わせて 1日 200~230食提供

取り組みその2

## ペットボトルを回収してリサイクルしよう!



便利なペットボトルは、きちんと資源としてリサイクルすることでその価値を高め、北海道の自然環境を守ることにつながります。そのためコープさっぽろでは20年よりペットボトル回収機を順次設置し、82店舗に及びます。この回収機は寄付機能を搭載し、1本につき0.3円をコープさっぽろが寄付します。寄付先は「だから、マイボトルエコ基金」、「北海道ユニセフ協会」、「北海道e-水プロジェクト」から選択できます。分別を行ってキレイなペットボトルの回収を増やし、「ペットボトルからペットボトルにリサイクルできる」工場へと送り、資源化を促進しています。



ペットボトルを入れると数秒で圧縮



取り組みその3

## 海や川などの清掃活動しよう!



### 誰もが手ぶらで気軽に参加

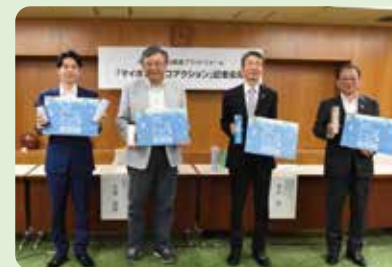
マイボトルエコアクションの活動の中で、最も環境問題を肌で感じられると言える活動です。20年には組合員さんが行っていた海や川の清掃活動を、21年は諸団体と連携を取りながら全道一斉に行いました。まずは7月7日のクールアースデーに全道21カ所で行われ、組合員さんを中心に116名が参加。30袋分のゴミを集めました。さらに清掃活動は規模をぐんと大きくして「海のクリーンアップ大作戦!」と名付け、10月20日・23日の2日間、全道計44カ所で行いました。誰もが手ぶらで気軽に参加できるよう、参加特典にトドックオリジナル軍手を用意し、ゴミを集めるためのトンゴやゴミ袋もすべて事前に準備。当日は多数の企業様・学校様、各自治体の方々にもご参加いただき、コープさっぽろ職員も理事や店長・センター長なども含めて多数参加しました。



10月23日、石狩市新港東4丁目海岸に集まった方々



世界の課題を身近に考える  
毎年800万トンものプラスチックごみが、街から川を經由して海へ流れています。その「海洋プラスチックごみ」は、世界規模の大問題。それを解決するために、私たちはまず自分たちの身近なテーマとしてとらえ、できることから始めなければなりません。組合員さんの間でも関心は高まっており、2020年12月からマイボトルを持ち歩く「だから、マイボトルエコ宣言」運動(10ページ)が、一足先に始まっていました。それはコープさっぽろが取引先企業様等と19年に立ち上げた「北海道SDGs推進プラットフォーム」の課題意識と合致し、マイボトルエコ宣言を推進して全道に活動の輪を広げようと、21年6月より「マイボトルエコアク



21年7月7日、鈴木北海道知事出席のもとマイボトルエコアクション開始の記者会見を実施

ション」をスタート。マイボトルの購入やペットボトルの回収といった活動が、北海道の海をきれいにする活動支援へとつながっています。市民活動と事業活動の両面から展開していったマイボトルエコアクションは大きな成果を上げました。マイボトル利用の呼びかけと、ペットボトル回収促進、そして河川の清掃活動。そのへ大切な3つの取り組みを、次にご紹介いたします。

# マイボトルエコアクション

海のクリーンアップ大作戦!

取り組みその1

## マイボトルを持ち歩こう!



マイボトルを持ち歩くことは、ペットボトルをできるだけ使わないことにつながります。組合員さんのマイボトルエコ宣言活動を推進すると共に、コープさっぽろではオリジナルのマイボトルを販売。購入すると1本につき10円が「だから、マイボトルエコ基金」に寄付される仕組みになっています。また、マイボトルの輪を広げるために21年6月～22年3月までおこなわれたのが「マイボトルエコ・フォトキャンペーン」。これもマイボトルが写っている写真の投稿1枚につき10円が「だから、マイボトルエコ基金」に寄付されました。誰もがマイボトルを持ち歩いている風景を、日常にするのが一番の狙いです。



フォトキャンペーン画像をもとに21年10月、札幌駅前地下歩行空間で写真展を開催しました



海のクリーンアップ大作戦! 参加人数 **2841人** 回収したゴミ袋 **2458袋**

※21年10月20日・23日実施。利用ゴミ袋は45ℓ(道南地区一部30ℓ)使用。

初めのオンライン開催。  
質問はチャットで

2007年から始まり、全道8会場で年間3万人以上を動員している「食べる・たいせつフェスティバル」。例年は組合員さんと、生産者・企業・行政などとの交流の場として、「食」へくらしへ環境など様々なテーマに基づいた参加型体験プログラムを実施。子どもから大人まで楽しみながら学べる体験型イベントとして、大々的に行っていました。

20年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のためにやむなく中止しましたが、21年は10月3日に初の「オンライン」で開催。賛同してくださった11社の企業様が出展し、体験プログラムを準備しました。普段なかなか見ることができない工場の中の様子や、全道各地の生産者さんのお仕事も画面越しにじっくり見学。『きのこって世界中に1万〜2万種類もあるの!』と、クイズ形式でのためになる授業もあ

り、どのプログラムもわからないことは都度チャットでやりとりOK。オンラインながら、親子でもリアルに参加している感覚にこだわり抜きました。また全道各地の組合員さんによる地域生産者応援ムービー等の動画紹介コーナーも設置。後日もサイトは10月31日までアーカイブで視聴できるなど、オンラインならではの良さも生かしての開催となりました。



## 「食べる・たいせつフェスティバル2021」



閲覧コンテンツ数 **24種類** 参加人数 **5466人**



環境アクション  
「コープ未来の森プロジェクト」

100年先へ森をつなぐ

北海道洞爺湖サミットが開催された2008年、コープさっぽろはCO<sub>2</sub>の削減を推進するためレジ袋有料化を開始しました。レジ袋の利用を辞退すると1枚につき0.5円が基金に積み立てられ、植樹等に活用されています。活動開始から21年12月現在までの累計募金額（レジ袋辞退金）は3億3014万3875円。森づくりの舞台となる「コープの森」は道内に16カ所あり、植樹本数は11万本を超えます。

その中には広葉樹もあれば、地域の森林組合の方針に沿って針葉樹を植えるところもあります。森林が持つ多様な価値と機能を担保するため、「コープの森」は多様な森づくりのあり方を大切にしているのです。その象徴が当別町にある「Fの森」です。「Fの森」では100年先に残したい森の姿を、専門家の手助けを受けながら市民が考え、植樹はもちろん、植えた樹が育つための育樹作業も行います。「Fの森」には参加するみんなの「未来の森づくり」の思いがこめられています。

累計植樹本数 (14年間) **11万3956本**

## 〈組合員活動〉 だから、マイボトルエコ宣言

きっかけは2019年10月末、組合員さんの代表である全道各地のエリア委員さんが集まる年に一度の交流会でした。18年からSDGsについて学んでいた流れもあり、組合員理事さんと地区委員長さんとで「交流会には、マイボトルを持ってきてもらおうか?」と相談。しかし全道から札幌へ集まるため、遠方に住む方も「マイボトル」という小荷物を家から持って来なければなりません。中の飲み物は会場を用意することをお約束し、「まずはやってみませんか?」と各地区へ協力をお願いしました。迎えた当日、参加者は全員マイボトルを持参。いつもなら配るはずのペットボトル100本以上を消費することなく交流会が行えた成果に感動し、そこから徐々に、プラスチックごみへの学習会や清掃活動などを各地区で重ねていきました。そして20年12月にはマイボトル持参の呼びかけに使える「だから、マイボトルエコ宣言」のステッカーを作成。エリア委員の皆さんは、ステッカーの主旨を伝えながら徐々に配布しています。21年には北海道SDGs推進プラットフォームとも協力してさらに規模を拡大し、現在も取り組みを北海道中へ広めています。

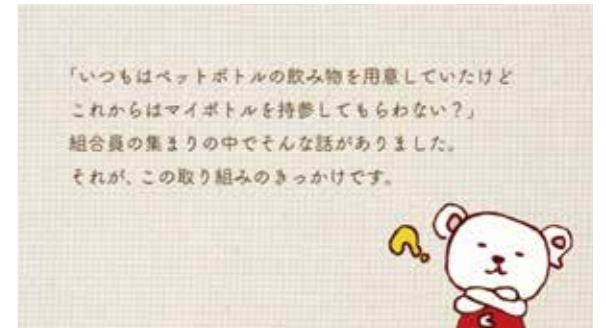


「だから、マイボトルエコ宣言」を先導する組合員理事・地区委員長の皆さん(2021年度)



マイボトルエコアクションに先駆けて、海辺の清掃活動も実施

プラスチックゴミ、資源ゴミの処理工場などを見学して学びを深めました



YouTube くみかつチャンネル 「だから、マイボトルエコ宣言」の主旨を1分48秒の動画に

## マイボトルに貼るステッカーを配布

“再生ペット樹脂100%”で作ったステッカー。組合員活動委員会メンバー総意で「マイボトル活動の主旨を伝えた上でお配りする」のがポイントです。配布は年間5万人を目標にしています。



ステッカー表



ステッカー裏



**生協で物を買うことでSDGsに関われる**

**大見** 浜田さん、ようこそ北海道へ。1年越しの念願がようやくかないましたね。

**浜田** そうなんです。読んでいる方に少し説明すると、実は1年以上前からコープさっぽろに取材を申し込んでいたんですが、コロナ禍でなかなかこちらへ来ることができず、今回ようやく実現しました。

**大見** コープさっぽろに興味を持っていただき、ありがとうございます。昨日までの2日間

で店舗や宅配センターだけではなく、北海道ロジサービスやエコセンターもご覧になったと聞いています。

**浜田** はい。『やまはな店』でお寿司と惣菜とスイーツを大人買いして、ホテルでいただきました。おいしかったです。なにより手頃なのがうれしい。東京にもコープさっぽろが来てほしいぐらいです。もちろん、生協法の兼ね合いでそれはかないませんが。さて、私がコープさっぽろを取材したいと思ったのは、前回の『SDGs BOOK』で大見さんと対談されていた早稲田大学ビジネススクールの入山章栄先生がきっかけです。私は以前からローカルビジネスと、公に代わる新しい共助の仕組みに興味があって、ベンチャー企業などを取材してきましたが、入山先生から「コープさっぽろの取り組みはまさにSDGsだ」と聞き、この目で確かめたいと思っていました。今回取材をして、生活協同組合は古くからあるにもかかわらず、その仕組みは持続可能な地域社会を守る上で最先端であることを確信しました。

## 持続可能性という意味で生協は最先端だと思う

**大見** 生活協同組合の源流は、イギリス・マンチェスター郊外のロッチデールで1844年に設立された「ロッチデール公正開拓者組合」にあります。産業革命の後、劣悪な労働環境で働く労働者たちが、「せめて自分たちの食べるものを自分たちで調達しよう」とーポンド

**大見** ずつ出し合って生まれたものです。まさに資本主義の黎明期に、その問題解決を図るために組織されたのがコープです。社会構造が変わる中で生まれる生活課題に対して、修正を加えながら自主自立で解決に取り組むマインドが原点にあります。

**浜田** リーマン・ショック以降、資本主義の限界ということがいわゆるようになり、欧米では新しい資本主義をどう築いていくかという議論が盛んに行われています。もっと良い資本主義とは？経済格差はどうしたらなくなる？持続可能な社会をどう構築するのか？私は2017年にアメリカ発のオンライン経済メディア「Business Insider」の日本版を立ち上げましたが、コンセプトに「Better Capitalism」を掲げ、80年以降に生まれたミレニアル世代をメインターゲットに、より良い働き方、より良いビジネス、より良い社会につながるコンテンツを発信してきました。実感としてミレニアル世代は社会貢献意欲が高いのですが、それは気候変動や経済格差がより若い世代

にとって切実な問題だからだと思います。そうした中、欧米の若い人たちの間で広がっているのが「バイコット (boycott)」。不買運動は「バイコット (boycott)」ですが、「バイコット」は選んで買って応援するソーシャルアクションです。コープさっぽろを取材して思うのは、生協もやはり「バイコット」だということ。生活者が出資して組合員になり、そこから物を買うことで組織が回る。自分が生協に入ってものを買うことが生産者を助けたり、環境にも良かったり、SDGsに関わっていることにつながる。今まさに



浜田敬子さん

1989年株式会社朝日新聞社入社。2014年『AERA』編集長に就任。17年3月に退社後、オンライン経済メディア「Business Insider Japan」の統括編集長に就任。20年12月に退任し、現在はフリーのジャーナリストとして活動。「羽鳥慎一モーニングショー」や「サンデーモーニング」などでコメンテーターを務める。

# 北海道のためにコープができることって何だろう？

「課題先進地」といわれる北海道。

少子高齢化・人口減少が進む中で

産業の担い手不足、行政サービスの質の低下など

今、さまざまな問題が浮き彫りとなっています。

持続可能な地域社会の実現のために

コープさっぽろが果たすべき役割とは？

ローカルビジネスとSDGsに詳しい

ジャーナリストの浜田敬子さんとともに考えます。



コープさっぽろ理事長  
大見 英明  
おおみ ひであき

ジャーナリスト  
浜田 敬子  
はまだ けいこ



欧米で生まれている若い人たちの新しいうねりと生協は、重なる部分が大いとい私はとらえています。

## リソースの組合せで 実現したエコセンター

**浜田** SDGsという言葉が日本にも浸透し、現在ではどの企業も口をそろえて「社会貢献に取り組んでいる」といいます。ところが、本気でやっているかといえば疑問符で、本体の事業とは別にCSR活動をやっていきますというケースがまだまだ多い。そうではなく、事業本体が社会貢献につながらなければ持続可能性はないと思っています。コープさっぽろで注目すべきは、事業と社会貢献とが一体化し、ビジネスとしてきちんと回っているところです。エコセンターは一つの象徴です。

**大見** エコセンターでは店舗・宅配事業から出るカタログや牛乳パックなどを回収して、再資源化やリサイクル事業者への販売を行っています。年間販売額は約5億円で、2億数千円などの調理受託の実績もあります。配食工場は道内に7カ所あり、自社工場で製造した食事を、温かいものは温かいまま、自前のトラックでお届けできます。学校給食法には則っていないので、厳密には「給食」という名前は使えませんが、自治体が単体でやるよりも効率的に給食に代わるランチを提供できるわけです。

**浜田** 公の機能を補完することで価値を創出する。営利を目的とする民間企業ではない、共助の仕組みがベースとなっている生協が、公の役割を補完していることがとても興味深いです。食事を届けるのももちろんですが、学校給食法という法制度の矛盾に対しても、新しい仕組みを示すことで課題をクリアしています。そもそも給食やリサイクル事業をなぜ公がやるのかといったら、民間企業では採算が合わないからです。

**大見** 北海道には179もの市町村があります。190万都市の札幌もあれば、1000人に満たない自治体もある。すべての市町村で同じだけ

## リソースのパズルで 新しい価値が生まれる

円の経常剰余が出ています。リサイクル事業は儲からないといわれる中で、なぜコープさっぽろは剰余を出せるのか。それは物流網を自前で持っているからなんです。08年に資源回収事業を始めるのあたり、再資源化物収集におけるビジネス構造を調査したところ、コストの6割を占めるのが回収のための車両費と人件費であることが分かりました。この6割が削減できれば、その分プロ

の行政サービスを期待するのは無理があります。われわれは98年の経営破綻を経て07年に全道統合を果たしました。これにより、販売、物流、製造も内部コントロールさえできれば自前でまかなえることにな

フィットが生まれます。われわれは、全道に独自の物流網を持っています。店舗や組合員さん宅へ商品を届けた後の「戻り便」に回収品を載せれば送料がかかりません。現場の担当者が段ボールを畳んでカゴ台車にまとめれば、詰め替えのための人件費もセーブできます。こうして50%以上の利益率を確保しています。

**浜田** 単体で事業を行えば、たくさんトラックと従業員を抱えることになる。でも、既に走っているトラックの戻り便で回収するという、自分たちのリソースをパズルのように組み合わせることで低コストで事業化ができることに気づいた。この着眼点ですね。加えてすごいと思うのは、組合員さんのモチベーションの高さです。回収する段階で分別が徹底できているから、エコセンターでの仕分けコストは最小限に抑えられます。しかもこうして出たエコセンターの剰余を子育て支援活動に活用している。この還元の仕事がまさに地域循環型でSDGs的だなと思うんです。組合員さんも、多少の

なった。食を中心にしながら、その延長線上でできることはほとんどやっています。今はそこに重点を置き、自分たちのリソースをどうマッチングさせたら全体最適化できるのかという発想を絶えずしています。おかげさまでスクールランチ事業は他の市町村からも問合せが来ています。

## 生協の世界観や仕組みが もつと世の中に広まれば

**浜田** 日本は成長が停滞しています。日本の中でも北海道は特に経済的に厳しい状況です。でも厳しいからこそ、相互扶助的な発想になっていくのだと思うと思います。

**大見** ホクレンの取扱高が1兆4500億円、ぎよれんが2300億円、うちの事業高が3000億円、足すと約2兆円です。協同組合陣営の占める割合が、北海道は日本の中でずばぬけています。

**浜田** 北海道の生活インフラとして協同組合の存在は欠かせないものですね。この対談の最後に、私から一つお願いがあり

手間がかかっても資源回収に協力しているのは、組合員さんとの信頼関係があつてこそだと思いますが、消費者が消費するだけではなく、より良い地域経済のために参加しているということ、その仕組みが財産なんだと腑に落ちました。

## 公の機能を補完する スクールランチ事業

**浜田** 実は今回、最も知りかったのがスクールランチ事業です。人口減少により、自治体の財源が厳しくなる中で、公ができることには限界があります。今まで提供できたことができなくなったときに、誰が

ます。大見さんにも、コープさっぽろにも、コープ的な発想をぜひ広めてほしいんです。本当の意味での社会貢献とは何か？コープの仕組みや理念を、もつと世の中に広めてほしいと思っています。そもそも、世の中のすべての株式会社や短期の利益を追求しなければならぬのだからか。一部でコープ的なやり方を取り入れること



## コープ的な発想で 新しい共助の仕組みを

はできないか。コープ式の経営から学べるのが大きいにあるはず。一方で消費者にも、ただお金を出してサービスを受け取ったら終わりではなく、「バインコット」のように何かの活動や組織を支えるために商品やサービスを選択するという発想が広まったらいですね。自分たちは社会をつくる一員であるという意識で、商品を選択する。まさにコープ的な世界観や仕組みが広がればいい。コープさっぽろにはぜひ発信してほしいし、私自身も取材活動や執筆を通して、多くの人に伝えられたらと思います。

**大見** とても心強いです。今日はありがとうございました。





地域まるごと  
元気アッププログラム

高齢者向け認知症予防プログラム  
登録者**1,400名**  
参加者**32,300名**／年

北海道ロジサービス(株)  
(物流業)

トラック車両台数 **600台**

コープトレーディング(貿易)

イタリア生協からの輸入など

夕食宅配サービス

利用人数 **7,600名**  
年間提供食数 **188万食**  
配達車両台数 **198台**



アニマドレー(授業で農業を学ぶ)

札幌市内高校**4校39名**参加  
農から開発、販売まで一貫した  
食育プログラム(単位認定)

高齢者見守り協定

**174市町村**締結(全179市町村)  
**119件**／年

組合員数 **1,921,098名**  
(組合員組織率69.4%)  
※北海道世帯数 277万世帯

出資金額 **837億円**  
総事業高 **3,097億円**  
店舗事業高 **1,912億円**  
宅配事業高 **1,085億円**  
共済事業 **21億円**  
その他 **79億円**  
経常剰余 **65億円**  
職員数 **14,888名**  
※障がい者雇用 **5.8%(570名)**  
※海外技能実習生 **123名**

2022年3月21日現在

トドックフードバンク

提供量 **6961万円**／年  
全道**23カ所**の児童養護施設ほか  
全5団体へ、返品などの商品を毎週提供

トドックフードキャラバン

児童養護施設へ、  
調理方法を伝えるキャラバン  
**3施設 33名**参加／年



店舗

**107店舗**  
事業高 **1912億6800万円**

移動販売車  
「おまかせ便カケル」

**134市町村**  
**58店舗95台**  
での運行



宅配

**44万世帯**

物流センター**50拠点**

事業高 **1085億円**

宅配車両台数 **1,253台**

ちょこっと  
(食のフリーペーパー)

毎月1日発行  
**60万部**／月



農業賞

消費者目線で一次産業を応援。  
オンライン審査を経て表彰式を実施。

高校生チャレンジ  
グルメコンテスト

地元食材で開発したレシピで競う。  
2021年度はファイナリスト**6校**が出演。

認知症予防

認知症予防  
認知症の理解と予防のキャラバン  
7自治体 **258名**参加／年

文化教室・貸し教室・文化鑑賞会

文化教室 **19教室**／キッチンスタジオ **4カ所**  
貸し教室 **40カ所**／文化鑑賞会会員 **850名**  
事業高 **4億円**  
参加人数 **10万人**(年間稼働者数)

人と人をつなぐ事業

つながり形成 & 生活協同組合

組合員活動 文化 教室 福祉活動

フリエ 旅行

人と食をつなぐ事業

食のプロデュース能力

店舗 移動販売  
食育 製造 宅配・配食

生産工場

事業高 **200億円**

・コープさっぽろ生鮮PC(畜産、水産)  
・コープフーズ(株)  
(石狩、江別、配食**5工場**、社会給食)  
・(株)ドリームファクトリー(惣菜、畜産PC)  
・(株)札幌駅立売商会(弁売亭)  
・北海道はまなす食品(株)(納豆)  
・(株)大雪水資源保全センター(水)  
・さくら食品(株)(アイスクリーム)

畑でレストラン

生産者とシェフと組合員さんをつなぐ  
1日限定レストラン。7,500円／名  
感染症対策を実施し、一部日程で開催。

食べる・たいせつ  
フェスティバル

食育イベント  
2021年はオンライン開催。  
視聴参加人数 **5,466人**。

ユニセフ支援

インドネシア・バブア地域  
よむ・かくうれい!  
支援プロジェクト  
累計募金 **13,158,720円**



フリエ(葬祭事業)

札幌・恵庭・北広島・旭川**18式場**  
2021年度  
事業高 **4億4000万円**  
葬儀件数累計 **514件**

人と未来をつなぐ事業

ソーシャルビジネス開発能力

共済 エネルギー 子育て支援  
リサイクル 環境活動

エコセンター(江別)

総事業高 **5億4300万円**  
**3.8万トン**／年間回収量  
古着**1,324トン**／年間  
ペットボトル小型減容回収機**82店舗**

トドックエコステーション  
(環境学習の拠点)

見学者数 **900人**、うち643人が小学生



エネコープ(エネルギー事業)

事業高 **113億8300万円**  
営業所**14拠点**

募金関連(ファンディング)

動物園・水族館応援基金  
**26,334,510円**  
ほっかいどう若者応援プロジェクト募金  
**14,985,735円**



コープトラベル(旅行業)

年商 **4億2600万円** **5店舗**

SDGs プラットホーム

北海道の環境、貧困問題など支援を  
後押しする産学官協議会  
(事務局:コープさっぽろ)  
SDGs研究会 **年2回**開催



ファーストチャイルドボックス

育児支援パッケージ無償配布  
2018年4月開始  
累計**27,790名**へお届け  
(年間第1子出産者の  
**55%**)



コープチャイルドボックス

2019年10月開始  
累計 **14,615名**



コープさっぽろ  
大学生育英奨学金(給付型)

**100万円**／4年を給付。  
累計受給者数**1,339名**  
支援総額 **3億3475万円**

RE100宣言

2040年までに再生可能エネルギーで  
事業推進日本で  
**13番目**に登録 **RE 100**

トドック電力

事業高 **94億3900万円**  
メガソーラー施設**2カ所**(帯広)

コープさっぽろ事業  
MAP

コープさっぽろは多岐にわたる分野で  
課題解決へと「つなぐ」事業を実施して  
います。主な事業とその規模を一覧  
でご紹介します。

大学連携

・関西大学  
・小樽商科大学  
・酪農学園大学  
・旭川大学  
・旭川短期大学  
・室蘭工業大学  
・北海道文教大学  
・函館短期大学  
・札幌大学  
・北海道大学  
・北海道学園大学

共済

加入件数 **60万人**  
事業高 **21億円**



えほんがトドック(絵本配布)

2010年開始から  
**105,515世帯**へ配布  
(累計**481,689冊**)  
※えほんわくわくキャラバン  
幼稚園、保育園  
2012年開始 累計**990園**訪問



トドックステーション

宅配センター内のコミュニティスペース  
全道**25カ所**(うち店舗**5カ所**)  
**41,785人**利用



コープ未来の森づくり基金

植樹**2,832本**／年間  
2008年からの累積本数は  
**113,956本**



連携

・JAみねのぶ  
・魚長(19店舗)  
・ココワ北竜町  
・妹背牛町  
・様似型スクールランチ



## 「夕食宅配サービス」 年間188万食

夕食宅配サービスは、月曜から土曜まで日替わりの夕食を宅配するサービスです。「買い物に難しい」「食事が作れない」高齢者の〈食のライフラインを支える〉ことを目的に2010年にスタートしました。2021年現在、利用者数は7600名を超え、年間188万食を供給しています。メニューはコープフーズの管理栄養士が監修。手頃な価格で主菜が選べる「梅」、平均10品目の食材を使用する栄養バランス重視の「竹」、食べ応えのあるちょっと贅沢な「松」の3種類を用意しています。このほか、医療食・介護食に対応した健康管理食(カロリー・たんぱく制限食)、やわらか食の提供も行っています。



## 「宅配システムトドック」 利用者44万人

コープさっぽろ宅配システムトドックは、〈週に1度〉〈決まった曜日〉〈決まった時間〉に地域の担当者が、組合員さんのお宅へ商品を届ける宅配システムです。システム手数料として通常1回220円が掛かりますが、妊娠・子育て中のご家庭やシニア世帯など、買い物が大変な方を対象にシステム手数料が無料になるサービスを行っています(子育てサポート・60サポート)。また、商品は少量野菜セットや必要な分だけ使える肉や魚、手軽でおいしい冷凍食品なども充実し、「置き配」にも対応しているので一人暮らしの利用者も増えています。2022年3月に宅配利用者は44万人を突破しました。



コープさっぽろやまはな店／札幌市中央区南22条西10丁目1-1 営業時間9:00～22:00 駐車台数49台

2021年11月11日にオープン。コープさっぽろとしては108店舗目で、札幌の山鼻地区にはおよそ32年ぶりの出店です。最新モデルが集約されている中型店で、「都市型モデル店舗」として期待を集めています。商圏の買い物傾向に合わせて、松坂

併設した施設が充実しているのも特徴です。ひとつは店舗としては4店目となる、地域の親子が気軽に集える交流施設「トドックステーション」(28ページ)。もうひとつは、コープさっぽろでは初めてのテナント出店となる「無印良品」。単身者から家族連れまで、地域の方々の楽しみ・コミュニティを後押しする場としての充実もはかっています。

牛や高級ワインなどクオリティの高い商品も多数品揃え。生鮮素材を使った「すぐ食べられる商品」の充実もはかっています。やまはな店だけで扱うお弁当やお惣菜も並びます。またスイーツの独自ブランド「トヨヒコ」(25ページ参照)を取り扱う数少ない店舗でもあります。

## 都市型店舗 「やまはな店」オープン



やまはな店トドックステーション

やまはな店舗での新規組合員加入数  
(22年3月20日現在)

# 3092名



## 高齢者・独居世帯の 「見守り活動」

宅配トドックの地域担当者や夕食宅配サービスの配達担当者は、組合員さんのご自宅を定期的に訪問することから、ご高齢世帯の〈見守り〉の役割を担うことができます。訪問時に異常や異変を感じた際の緊急の連絡体制をスムーズにするため、2010年4月に小樽市との間で「高齢者見守り協定」を締結。これを皮切りに、現在は全道174市町村と協定を結んでいます。21年度は119件(宅配35・夕食宅配84)の緊急対応を行いました。また、高齢者・独居世帯へのサポートを強化するため、15年より「あんしんサポーター」の訪問活動をスタート。訪問範囲は25センター、6デポに拡大しています。



## 移動販売車 「おまかせ便カケル」

買い物の楽しさと便利さをお届けしたい!移動販売車「おまかせ便カケル」は、近くにお店がない地域や、歩いてお店に行けない高齢者への買い物支援を目的として2010年に誕生しました。小さなお店に匹敵する約1000品目の品ぞろえで、専用トラック95台が毎週決まった曜日に同じコースを同じ時間帯に巡回。21年9月30日現在、道内134市町村・300コース・1万2000世帯の方にご利用いただいています。20年には恵庭市で移動販売車を活用した保健指導や介護予防への取り組みも始まりました。今後も市町村との連携を強化し、より住民に寄り添った移動販売を目指していきます。



## 組合員190万人達成

2021年11月24日、組合員数190万人を達成し、記念式典が行われました。組合員数は20年1月に180万人を達成して以来、およそ2年間で10万人が増えたことになります。新型コロナウイルスの感染拡大を受けて巣ごもり需要による宅配トドックの需要が高まったほか、アプリ刷新による利便性の向上やSNSを活用した情報発信によって、特に20～30代の若い世代の加入が進みました。1世帯につき1名がコープさっぽろに加入していると仮定した場合、北海道の総世帯数は約279万世帯(20年1月1日現在)として、実に北海道全体の約68%の世帯が加入している計算になります。なお、創立60周年を迎える25年度までに組合員数220万人の達成を目標に掲げています。



## 火曜日は「ちびっこコープデー」! 木曜日は「ゴーゴーコープデー」!

子育て中の方とシニアの方が、店舗で利用できるお得なサービスデーが好評です。ひとつは毎週火曜日、中学3年生まで、または20歳までの障がいがあるお子さまをもつ方は5%OFFの「ちびっこコープデー」。もうひとつは毎週木曜日、55歳以上の方は組合員証を提示すると5%OFFの「ゴーゴーコープデー」。どちらも順調に登録人数を伸ばし、ちびっこコープデーは延べ15万6625名(2022年2月22日時点)、ゴーゴーコープデーは延べ61万3089名(22年2月9日時点)にご利用いただいています。※どちらも事前登録が必要です。さらにちびっこコープデーで3歳未満のお子さまを持つ方は、らくちん当日便の無料サービスもあります。



2021年4月23日、札幌大学で食品・日用品などを配布しました

●ほっかいどう若者応援プロジェクト実行委員会/連合北海道、北海道労働者福祉協議会、北海道生活協同組合連合会、生協連大生協連連合北海道地区

感染症収束の見通しが立たない中、一人暮らしの学生が経済的理由で学びと生活を諦めることがないよう、いま継続的な支援が求められています。コープさっぽろでは「ほっかいどう若者応援プロジェクト」実行委員会が実施主体となる、コロナ禍で困窮する若者・学生を応援する食の支援の取り組みに賛同。募金活動と食品&日用品の支援を行っており、これからも継続していく予定です。

**退学も検討。いま困窮する若者たち**

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、学生は今「暮らし」<学び> <コミュニティ>の3つの危機に直面しています。アルバイトで自身の就学費用や生活費を工面している学生は、大幅な収入の減少により困窮。退学を考えている学生も少なくありません。

## 「コロナ禍で学びの危機」「大学生へ食品・日用品を支援」

### ほっかいどう若者応援プロジェクト

コロナ禍で困窮する学生を応援する目的で設立。1人暮らしの学生に米や缶詰、レトルト食品のセットを送ることで食の支援、ならびに生活上の悩みや相談にも対応しています。



コープさっぽろ組合員さんからの募金総額  
2021年3月21日～5月20日

**1498万5735円**



子ども頃から慣れ親しんできた動物園と水族館がいま、危機にさらされていることをご存じでしょうか。新型コロナウイルス感染症拡大による予測不能な休園・休館を繰り返すことで、来園者数が激減。まったく先が見通せない中、懸命に運営されている事態を応援するため、店舗・宅配で「動物園・水族館応援募金」をつりました。元々コープさっぽろは生物多様性を学ぶ拠点である動物園を支援するために、2009年から「ホッキョクグマ応援プロジェクト」を実施。道内4つの動物園を継続的に支援し続けるだけでなく、「食べる・たいせつフェスティバル」にブース出展していただくなど、環境教育での連携も進めてきました。動物園や水族館は私たちにとって、子どもたちの豊かな心をはぐくむ身近で大切な場所。募金活動は短い期間でも多くの寄付が集まり、道内8つの団体には募金と共に「組合員さん」が応援しているという気持ちもお届けできました。



募金総額  
2021年7月12日～8月20日

**2633万4510円**

## 「動物園・水族館応援募金」

来園者数が激減している8団体へ寄付

### 寄付先団体

札幌市円山動物園/旭川市旭山動物園/おびひろ動物園/釧路市動物園/おたる水族館/サンピアザ水族館/登別マリンパークニクス/サケのふるさと千歳水族館



「奨学金は大人たちから高校生への熱いエール」

公益財団法人コープさっぽろ社会福祉基金は1989年に発足し、30年以上にわたって心身障がい児やひとり親家庭の高校生に対する育英奨学金事業を行ってきました。経済的に困難なひとり親家庭の高校生・高専生と特別支援学校高等部生を対象に、返済不要の奨学金を月額1万円、3年間給付する制度で、毎年70名前後の奨学生を公募しています。21年度はコロナ禍でひとり親世帯の収入減が深刻化する状況を受けて、コープさっぽろグループ関連会社11社からの寄付金7239万円を財源に、奨学生104名の追加募集を行いました。コープさっぽろ社会福祉基金の理事長の木村純さんは「奨学金は単に経済的な支援というだけではなく、『私たち大人はいつも君を応援しているよ』という気持ち伝えるもの」と、その意義を語ります。

なお、コープさっぽろ社会福祉基金では育英奨学金事業のほか、福祉施設やボランティア活動への助成も行っています。



### 奨学生の声より

3年間奨学金をいただけたことで、定期代や検定代に充てることができました。今度は僕が家族に思いを返す番です。自分の夢を必ず実現し、お世話になった人たちや家族に、堂々と胸を張れる人間に成長しようと強く思いました。

32年間で支援した奨学生 **1078人**



※写真はイメージです

## 新入職員の奨学金補助「職員奨学金返済支援制度」

大学を卒業したとたんに数百万円の奨学金返済を背負って社会に出ることになる…。これが貸与型給付金の現実です。社会のスタートラインに立ったばかりの新入職員の負担を軽減し、安心して働ける環境にしたい。こうした思いからコープさっぽろは「奨学金返済支援」制度を導入しました。大学・大学院を卒業した新卒入協者を対象に、奨学金返済月額の半分を入協3年目までコープさっぽろが負担します。月の自己負担額の上限を1万円とし、超過分は全額支給するなど、返済に追われずに安心して働ける制度です。2019年度の制度開始から3年間で累計91名の職員が利用しています。



## コープさっぽろ「大学生育英奨学金」

学費の高騰や家計収入の減少により、今や大学生の2人に1人が何らかの奨学金を利用しています。しかし不安定雇用や低賃金労働の拡大により、卒業後「返したくても返せない」人が増えています。この状況が続けば、貧困の連鎖にとどまらず、中間層までもが結婚・出産・子育てが困難となり、少子化・人口減を加速しかねません。コープさっぽろは2017年に「大学生育英奨学金」制度を創設しました。コープで働く大学生に、返済不要の奨学金を年間25万円、最長で4年間100万円給付。21年度までに累計1339名(支援総額3億3475万円)が受給しています。





第11回コープさっぽろ農業賞の受賞者の皆さん

第11回コープさっぽろ農業賞の受賞者の皆さん

も「環境負荷を与えない持続可

えました。また農業賞そのもの

SDGsを先導するもの」と称

社との連携、地域の活性化など

や食の安全、食べる人の健康、福

個々の取り組みを「環境への配慮

多かった」と印象を述べた上で、

振り返り、「レベルの高いものが

が選ばれました。

麻田信二審査委員長は審査を

開催しています。第11回農業賞

の審査は当初20年に実施予定で

したが、新型コロナウイルスの感

染拡大を受けて延期し、21年に

オンラインで行われました。審査

の結果、北海道知事大賞には清

水町の「あすなるファームینگ」

能な農業、いわゆる有機農業の

推進に大きな役割を果たしてき

た」とその成果を評価します。

農業賞の側面として新たな事

業への展開があります。コープ

さっぽろは農業賞から生まれた

つながりを生かし、18年間にさ

まざまな試みを行ってきました

た。そのつが06年に始まった「こ

近所やさい」です。20年までに登

録生産者は1450軒を数え、

年間取扱高は22億円規模とな

り、新規就農者の販路開拓にも

大いに貢献しています。10年には

規格外野菜を扱う「ぶこつ野

菜」、12年からは「有機野菜」の積

極的な取り扱いもスタートしま

した。17年には第10回農業賞の

審査でアニマルウェルフェアの取

り組みに刺激を受け、平飼卵の

全道販売を開始しました。ま

た、ビジネスモデル賞の創設を機

に、優れた6次化モデルを学ぶた

め、小樽商大ビジネススクールと

連携して冊子「挑む農業」を19年

に発行しています。

関連する取り組みとしては、



北海道知事大賞を受賞した「あすなるファームینگ」

2 食料を  
中心に

8 働きがいも  
経済成長も

12 つくば未来  
つくば未来

18年間の農業賞応募総数・  
受賞団体数

1244件・204団体

# 人と食

2021年度

活動報告

## コープさっぽろ農業賞

### 農業賞のつながりを あらたなる価値に



### 高齢者が楽しく運動できる場 「地域まるごと元気アッププログラム」

高齢者の健康維持と介護・認知症予防を目的としたコミュニケーショントラック教室「地域まるごと元気アップ(通称:まる元)」。コープさっぽろがNPO法人ソーシャルビジネス推進センター、北翔大学と三者協働で運営。健康運動指導士の資格を持つ指導者のもと、参加者は体力に合わせて楽しく運動できます。コロナ禍でも運動不足にならないようにと、密を避けて広い教室で開催したり、入れ替え制で1回の参加人数を減らしたりなどの対策を立てて開催。2012年から開始して現在25市町村・約1400名に参加いただいています。

3 すべての人に  
健康と福祉を

11 働きがいのある  
まちづくりを

17 パートナリングで  
目標を達成しよう



### 長く働ける環境構築を目指す 「障がい者雇用」

2020年に設立した就労継続支援A型「株式会社コープパートナーズ」は、障がい者の一般就労を目指して訓練や育成を行い、長く働ける環境の構築を目的としています。コープさっぽろグループ全体の障がい者雇用人数は22年3月現在で570人(雇用率5.8%)におよび、ほぼすべての事業所でそれぞれ働いていただいています。また外国人技能実習生の受入れや、優秀な人材確保のための「秋採用」実施、欧米流「ジョブ型採用」でエンジニアを採用するなど、ダイバーシティの取り組みも推進。働く人がそれぞれの適正を生かせる仕組みを整えることで、より生産性を高めていくことが狙いです。

8 働きがいも  
経済成長も

17 パートナリングで  
目標を達成しよう



### 困りごととお手伝いサービス 「こまるとCOOP」

札幌市の65歳以上の高齢化率は27.6%(2020年)で、高齢者の単独・夫婦世帯は年々増加しています。昔のようなご近所や町内会などのつきあひも減るなか、日常生活の「ちょっとした困りごと」を誰かに頼むことが困難になっています。こうした社会背景から21年6月、生活支援サービス「こまるとCOOP」を開始しました。宅配システムドックを利用する高齢者を対象に、除雪や買い物代行、室内清掃などをコープさっぽろの職員や協力事業者が有償で請け負います。まずは札幌市内で最も高齢化率が高い石山地区(南区)を皮切りに試験運用し、順次エリアを拡大していく予定です。

11 働きがいのある  
まちづくりを



2022年3月、コープ神楽店敷地内にオープンした「ウィズハウス神楽」

### 「コープの家族葬」提携式場が 全道へ拡大中

「家族がつよい、家族がつくり、家族がおくる、家族のためのひととき」をコンセプトに、「コープの家族葬」プランがご利用いただける式場が全道へ拡大しています。札幌市内の直営式場2ホールから、2021年度「家族葬のウィズハウス」(運営(株)めもるホールディングス)との業務提携により、札幌市内近郊、旭川市の全18式場で「コープの家族葬」プランのご利用が可能となり、より多くの組合員さんにご利用いただけるようになりました。「いまどきの家族葬の式場のことを知りたい」という組合員さんの声にお答えし、「非接触形式」の式場見学会は毎月恒例で開催しております。(21年度施行実績・514件/年)

11 働きがいのある  
まちづくりを



22年3月に限定販売「男山」。720ml・1,680円(税別)と高品質の日本酒を手頃な価格で

## 北海道純米吟醸酒新ブランド「北乃覚醒」発売

「北海道の米農家と蔵元を応援し、日本酒文化を“覚醒”させたい」。そんな思いを込めて、コープさっぽろは酒造好適米の生産者と蔵元と協力し、純米吟醸酒の新ブランド「北乃覚醒(きたのかくせい)」を立ち上げました。第1弾は2021年3月、せたな町「農園おりざ」の米を倶知安町の二世古酒造で醸造した「彗星」。第2弾は同年6月、東川町酒造好適米生産者団体産の米を用いて、同町公設酒蔵「三千櫻酒造」で醸造した「きたしずく」。そして第3弾は22年3月、旭川の米農家・今野雅義さんの米「吟風」を酒蔵「男山」が大雪山由来の旭川名水で醸造した「男山 醸造」。これまでにトータルで9700本を販売し、今後もシリーズ化していきます。



## プラスチックゴミを減らす「ラベルレスの水」新登場

コープさっぽろの人気PB商品「大雪山国立公園湧き出る天然の水」。平成の名水百選として名高い「大雪旭岳湧水」を非加熱ろ過方式で無菌充填し、美味しさをできるだけ損なわないよう商品化しています。「美味しい水をもたらず環境も持続を」という意思を込めて、コープさっぽろでは2021年7月より、SDGsへの取り組みの一環としてこの水をケースに限り、ラベルレスで全店舗で発売。22年1月20日までに29万4360本を売り上げました。ラベルをはがす手間もなくプラスチックゴミを減らせます。コープさっぽろではドックを中心に、他にもラベルレスペットボトル商品の取り扱いを増やしています。



北海道の食にふれるグリーンツーリズム  
コープさっぽろ農業賞の受賞生産者と有名シェフがタッグを組み、生産者の畑を会場に1日限りのレストランを開く「畑でレストラン」。北海道のおいしい食文化の創造を目指して2012年にスタートし、現在までに累計343回実施しました。料理を提供するだけでなく、ファームツアーを行うのも特徴です。参加者が普段は立ち入ることのできない畑に入り、直接生産者の話を聞くことを通じて、食の生産現場を身近に感じ、地産地消の大切さや北海道で暮らすことを誇りに思えるような場となることを目指します。

2021年度は新型コロナウイルスの感染拡大を受けて開催の一部中止を余儀なくされました。その一方でこれまでに蓄積したノウハウを生かし、新企画「畑でWedding」がスタートしました。北海道の農業景観を借景にオープンエアの会場で、少人数制により感染症対策にもマッチした新しいスタイルの結婚式として注目を集めそうです。



累計参加者数 **7568名**



## 冷凍総菜をドックで発売「グルメストック自由時菜」

Withコロナで外出をなるべく控えている方が多い昨今。また、食品を買ったり作ったりすることに時間をかけない・かけられない消費者も確実に増えています。そんな時代のニーズに合わせて食の新たな価値を創出しようと、コープさっぽろでは「冷凍総菜プロジェクト」チームを作り試作を重ねました。そうして2021年9月より宅配システムドックで冷凍惣菜ブランド「グルメストック 自由時菜(じゆうじざい)」の販売をスタート。(3種の貝づくしごはん)、(グリルチキンとホワイトソースのフェットチーネ)など現在24種類を販売し、22年3月までに8万3226個を売り上げています。手間ひまかけた味をそのままに冷凍して閉じ込め、組合員さんのお宅に豊かな食をお届けしています。



## スイーツ新ブランド発売「トヨヒコ」

カラフルな杏仁豆腐、フルーツサンド、フルーツペネガー、スムージーと、その種類は40品目。2021年7月から立ち上げたスイーツ部門の独自ブランド「トヨヒコ」は、若い世代の来店をうながす新たな試みです。「大惣菜化プロジェクト」(26ページ)のコンセプトを利用して、農産で仕入れる旬の果物などを使い、すべて店内で調理。種類が豊富なため売り場には毎日異なるものが並び、組合員さんには「今日は何かがあるかな?」とワクワクしてもらえます。ブランド名は生活協同組合の創設者、賀川豊彦から。現在は西宮の沢店、やまはな店、恵み野店、しずない店、しんことに店、二十四軒店、エルフィン店の7店舗で取り扱い、22年2月末までに約7万8000個売り上げています。



## 食育活動「自炊塾」&「アニマドレープロジェクト」

コープさっぽろは、高校生チャレンジグルメコンテストのほかにさまざまな食育活動を支援しています。2019年度にスタートした「自炊塾」は、九州大学の比良松道一准教授による人気講座をアレンジしたものです。市立札幌大通高等学校に比良松道教授を招き、講義とワークショップを組み込んだ全4回の授業を通して「料理をつくる人を増やす」ことを目指します。また、農の新たな伝え手を育成しながら高校生のキャリア探究を行う「アニマドレープロジェクト」にも協賛。札幌市立高校の学校間連携プログラムに指定され、複数校で単位認定もされています。21年度は札幌市立高校4校の生徒が参加しました。



## 「高校生チャレンジグルメコンテスト」オンライン開催

高校生が自らメニューを考案し、調理して、販売する創作メニューコンテスト。食味を競うだけでなく、各地に根づく食文化や食材を研究・発掘し、地域の大人たちと手を携えてオリジナルメニューを開発します。2020年度はコロナ禍で開催中止となりましたが、21年度はファイナリスト6校と審査会場をオンラインでつないでの開催となりました。チャレンジグルメ大賞(北海道知事賞)は北海道千歳高等学校と市立札幌大通高等学校の2校が受賞。コープさっぽろ賞に選出された北海道霧多布高等学校の「きりたっぷりん」は、商品化され、コープさっぽろの店舗で実際に販売されました。



# 「大惣菜化プロジェクト」

## 新鮮素材を使い手作り販売店舗拡大中

すっかり味のしみたカレイの煮つけ、えびやアボカドでいりどり良いサラダ、焼き加減が絶妙な牛ステーキ。食べたいけれど、自宅で作りするには食材消費も手間もしんどい…。そんなふうに感じたことはありませんか？実は北海道の世帯平均人数は2.18人と全国的にも低く、かつ札幌市の単身世帯は全世帯の40.8%にも及び、食卓を囲む人数はあきらかに減っています。また共働き世帯の拡大や時間の使



い方的変化で、料理にかける時間も時間も減少傾向。そこで、「ひとりでもおいしいお店」を目指して2020年7月より「大惣菜化プロジェクト」をはじめました。お店に並ぶ新鮮な肉・魚・野菜の新鮮素材をもとに、すべて店内で惣菜を手作り。コンセプトは「わくわくする売り場」そして「おいしいことが大前提」。幅広い食材で、カットも調理方法もプロの技を存分に生かした惣菜を、いずれも200円前後で店頭に並べています。大惣菜化した店舗数は22年3月時61店舗で、どんどん増加中です。

販売数 **907万2301個**

アイテム数 (2022年3月現在) **347種類**



# 人と未来

活動報告

## 店舗の電力を「再生可能100%電力」に

### 店舗の電力切り替えで8割相当のCO<sub>2</sub>削減

2021年度  
コープさっぽろは2018年に北海道の企業では最も早く、全国では13番目にRE100に加盟し、40年までに事業活動で消費する電力を100%再生可能エネルギーにすることを目標に掲げました。コープさっぽろの事業活動における電気使用量(20年)は1億7298万7000kWhで、このうち店舗事業の使用量は全体の81%にあたる1億4031万9000kWhを占めています。これをCO<sub>2</sub>排出量に換算すると年間5.6万トン、一般家庭1万8000世帯分に相当します。コープさっぽろは脱炭素社会



脱炭素社会実現に向けてまずは店舗から

の実現に向け、21年12月1日、社のビルに入居するなど電源を変更できない7店舗を除く101店舗で、再生可能エネルギー由来の100%北海道産電力に切り替えました。これにより使用電力の約8割のCO<sub>2</sub>を削減できる計算になります。今後も北海道の脱炭素化をけん引するため、コープさっぽろグループの挑戦は続きます。

年間CO<sub>2</sub>削減量 **5万6000トン**

**RE100**  
企業の再生可能エネルギー100%を推進する国際ビジネスイニシアチブです。事業活動で使用する電力を100%再生可能エネルギーで行うことを宣言して初めて加盟が認められます。 **RE 100**



# プライベートブランド「なるほど商品」

## 「なるほど」なラインアップ

いまやいずれのスーパーでも見かけるプライベートブランド(PB)商品。でも正直「プライベートブランドって、ただ安いだけ」と思い込んでいる消費者も多いです。コープさっぽろは、健康に配慮した安全・安心な商品を求める組合員さんのためにあ

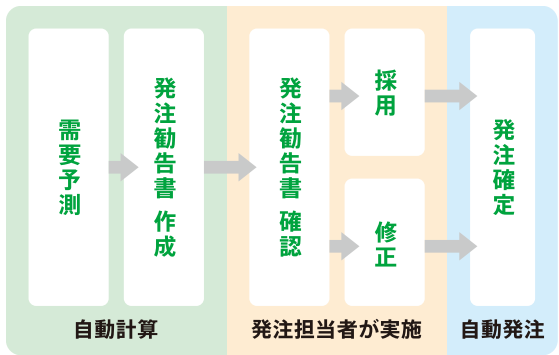


る組織。そのためPB「なるほど商品」は、開発する担当者の目線がひとあじ違います。北海道に暮らす人に合わせて、シンプルと良質、そしてできるかぎり北海道製造にこだわって作られたものばかり。その特長をストレートに込めた長い商品名は、読むだけで「なるほど」この商品は、ここが良いのか!と伝わる仕組みになっています。また栄養成分表示をこれでもかと、目立つ位置に大きく配置。これは自分や家族が口にするものの成分が何なのかを知るのには、消費者の当然の権利だと思いませんか。日頃から細かな表示を凝視する方にも、ひと目で「なるほど!こんな栄養なのか!」と納得していただくのが狙いです。



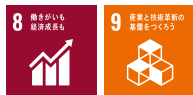
見やすい栄養成分表示

なるほど商品アイテム数 (2022年2月現在) **162点**



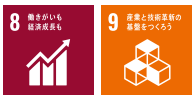
## 「AI自動発注システム」導入

コープさっぽろ全店で人工知能(AI)を活用した自動発注システムの導入を進めています。在庫を1時間に4回確認するといったきめこまやかなシステムで、天候や曜日による来店客数の変化、過去の販売実績などからAIが需要を予測し、商品を自動発注します。適正発注によって欠品による売り逃しを減らしたり、過剰在庫を防ぐと同時に、発注作業にかかる作業時間の削減が期待されています。システム導入により2021年11月までに年間相当10万7568時間の削減が認められました。今後もデータの蓄積によって発注精度を高め、導入前ベースから8割(20万時間)削減を目指しています。



## 「セミセルフレジ」で混雑緩和

お買い物混雑時のレジ待ち解消を目的に、2021年7月よりコープさっぽろ各店でセミセルフレジの導入を順次進めています。商品のスキャンまでを職員が行い、お会計は組合員さん自身がレジ横に設置された会計機で行うシステムで、会計時のスピードアップが見込まれています。職員の負担軽減により人材確保につながるほか、レジでのカード類の受け渡しが不要となることで、コロナ禍において非接触での会計作業が可能となります。22年3月現在、全道107店舗のうち73店舗で237台のセミセルフレジを導入しました。22年5月までに全店舗のうち87店舗の導入完了を目指しています。





江別市にあるエコセンターでは、2008年の稼働以来、コープさっぽろの事業所や組合員さんの家庭から出た資源を回収し、減容などの中間加工を行ってリサイクルにつなげています。回収量は年々増え、21年度は3万8208トンの資源を回収しました。これは2万4383トンのCO<sub>2</sub>削減に相当します。

### エコセンターの収益を次世代のために活用

## 「資源回収」の収益を子育て支援へ

こうした資源回収の取り組みを子育て支援に役立てようと、21年度よりエコセンターの収益をファーストチャイルドボックスやコープチャイルドボックス、えほんがトドックなどの活動資金として訪問してくれました。



に活用しています。21年度は1億円超を支援しました。

環境教育活動にも力を入れています。17年10月、エコセンター内に「トドックエコステーション」を開設。19年6月には体験型教育施設「あすもり資料室」と「エコステの森」を開設しました。21年度は新型コロナ禍の中900名の方が見学にきてくださり、特に江別市の小学校17校中10校の生徒さんが社会見学の一環として訪問してくれました。



2021年度資源回収による子育て支援金額 **1億1711万円**



### 「トドックフードキャラバン」

食品ロスに対する問題意識から2016年に始まった「トドックフードバンク」は、宅配トドックの返品アイテムの中で品質上問題のない食品を児童養護施設などに無償で提供する取り組みです。活動を進める中で、児童養護施設の子どもたちは「料理をつくる」ことにふれる機会が少ないことに気づき、食育プログラム「トドックフードキャラバン」をスタートしました。児童養護施設の子どもたちを対象に、コープさっぽろの子どもごはん研究家・能戸英里が調理を通して食の楽しさを伝えていきます。22年2月現在までに累計58回実施し、のべ680人が参加しました。



### 「えほんがトドック」

「えほんがトドック」は、絵本を通して「親子のふれあい」や「大切にしたい価値観の継承」のきっかけづくりを手助けしたいという思いから2010年にスタートしました。1〜2歳のお子さま、またはお孫さんがいる組合員世帯を対象に、無償で合計4冊の絵本を届けています。コロナ禍でおうち時間が増えた20年には絵本200冊を組合員さんにプレゼントしました。21年までに累計10万5515世帯のご家庭にのべ48万1689冊を配布しています。また、全道の保育園・幼稚園などで読み聞かせやトドックのステージを行う「えほんわくわくキャラバン」を12年から実施しています。現在までに累計990園を訪問し、7万9819名の園児たちが参加してくれました。



#### 第5回SDGs研究会

開催日	2021年6月30日
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>■基調講演 「プラスチック汚染とは何かを考える ～私たちが果たす役割」有限会社イーズ 代表取締役 枝廣淳子氏</li> <li>■研究報告 「海洋プラスチックゴミを含む海岸漂着物 ～北海道の事例～」北海道博物館 企画グループ兼自然研究グループ 学芸員 圓谷昂史氏</li> <li>■事例報告 「オホーツクの自然を守れ！～未来に繋ぐ環境改善～」北海道美幌高等学校環境改善班</li> <li>「ニトリグループのSDGs活動への取り組み」株式会社ニトリホールディングス SDGs推進室 室長 岩谷博通氏</li> </ul>

#### 第6回SDGs研究会

開催日	2022年2月10日
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>■基調講演 「100年後にも残したい豊かな海の未来をバックキャストで考える」株式会社クレーン 代表取締役 藺田綾子氏</li> <li>■事例報告 「廃棄物ゼロ社会の実現に向けたBtoBリサイクルの推進」北海道コカ・コーラボトリング株式会社 広報・サステイナビリティ推進部長 鈴木大介氏</li> <li>「マイボトルエコアクション ～北海道の海をキレイにしよう～」コープさっぽろ 組織本部部長補佐 (SDGs推進担当) 鈴木昭徳氏</li> </ul>

2021年度はオンラインで開催 SDGsの実現には、企業・団体など北海道で事業を行う人々が連携する必要があると考えたコープさっぽろは、2019年7月に「北海道SDGs推進プラットフォーム」を設立しました。同プラットフォームの下には推進委員会(事務局・コープさっぽろ)が置かれ、参加企業や団体のほか、学識者など多分野のステークホルダーで構成されています。推進

委員会では先進事例の報告の場として、コープさっぽろに関連する事業者を対象に「SDGs研究会」を開催しています。20年度に続き21年度もオンラインで開催、22年2月10日の第6回研究会では、コープさっぽろ鈴木昭徳組織本部 長補佐が「マイボトルエコアクション」(8P参照)の活動報告を行いました。



第5回・第6回SDGs研究会視聴回数 **1104回**

子どもが思いきり遊べる場 「トドックステーション」 宅配センター20カ所、店舗併設5カ所 子どもを自由に遊ばせたり、暮らしに役立つイベントに参加してみたりと、ここに来てホッとひととき気分転換してほしい。親子で自由に気楽に過ごせる空間を作ろうと、2016年からスタートした「トドックステーション」は入場無料で、授乳室やおむつ交換台も完備。ステーションごとにテーマを設けたカラフルかつ可愛いインテリア空間で、絵本やおもちゃも揃い、幼い子どもを思いきり遊ばせることができます。現在は全道各地、宅配システムトドックのセンター内に20カ所、店舗に併設された5カ所でご利用いただいています。新型コロナ感染拡大防止のため、ここでもオープン時間の短縮やフリーマーケット(えほん・おもちゃ・古着販売)の中止、受付での検温、入室の人数制限が余儀なくされている状況です。しかし21年度はコロナ



22年2月にオープンしたトドックステーション名寄。壁一面に大きなトドックや大きな葉っぱが描かれ、まるで自分が小さくなった気分に

禍ながらも感染対策に配慮し、数々のイベントも実施。やまびこ座を迎えての親子人形劇、絵本の読み聞かせやリズム体操などを楽しむコープさっぽろの取り組み「えほんわくわくキャラバン」、メーカーのカゴメ様にご協力いただき野菜不足の診断や離乳食実演を行う「野菜をとりょうく離乳食作り&ベジチェック」など、多くの親子にお楽しみいただくことができました。



2021年 年間参加人数 **4万1785名**

環境理念

コープさっぽろは、組合員さんへの「7つのお約束」を基本にして、組合員さん、役員が共に手を携えて「くらしの安心」と「より豊かな暮らし」のために平和を追求し、人間を尊重し、地球環境を守り、福祉・助け合いにあふれた地域づくりを積極的に推進していきます。コープさっぽろは、これらの活動が北海道全域に根ざし、北海道民全体が未来に向けて希望に満ちて生きることができるよう、持続可能な環境保全型の社会づくりをめざします。

- 電力・燃料等のエネルギー資源を効率的に使用し、地球温暖化防止に寄与します。
- 廃棄物の発生抑制と削減に取り組みます。
- 環境に配慮した事務用品の使用に努めます。
- 環境に配慮した商品の開発と普及に取り組みます。
- 業務の中で環境への配慮が積極的に行われる風土づくりに取り組みます。
- 組合員さんの声に学ぶとともに、地域に対して、環境問題の啓発を進めます。
- 環境保全型の地域社会づくりに取り組みます。

環境方針

コープさっぽろは、店舗・宅配システムドック・共済などの事業を通じて組合員さんに安心してご利用いただける安全な商品・サービスを提供し、北海道全体の豊かな暮らしと持続可能な環境保全型の社会づくりに寄与していきます。

① 事業における汚染の予防に取り組むとともに、より少ない環境負荷でより大きな価値を生み出せる業務執行を実践します。そのため、中期・短期の環境目的・目標を掲げ、定期的に見直しを進めながら、環境マネジメントシステムを継続的に改善します。

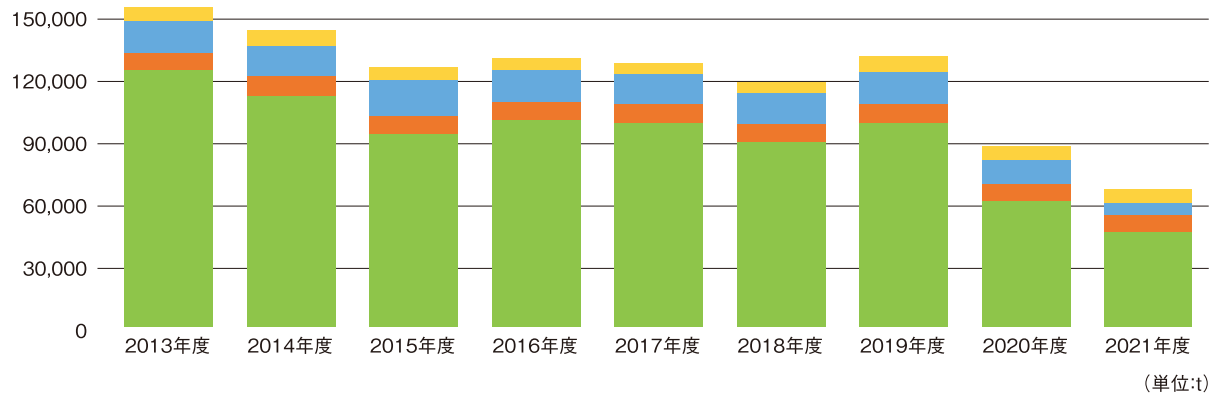
② 環境保全にかかわる法令・条例、並びに協定等受け入れを決めた要求事項を順守します。

③ この方針を全従業員に周知徹底し、マネジメントシステムの適用範囲内で一人ひとりが自らの果たすべき役割を自覚して行動します。

④ この環境方針を広く公開するとともに、環境活動の全ての取り組みについて定期的に公表します。

環境データ報告

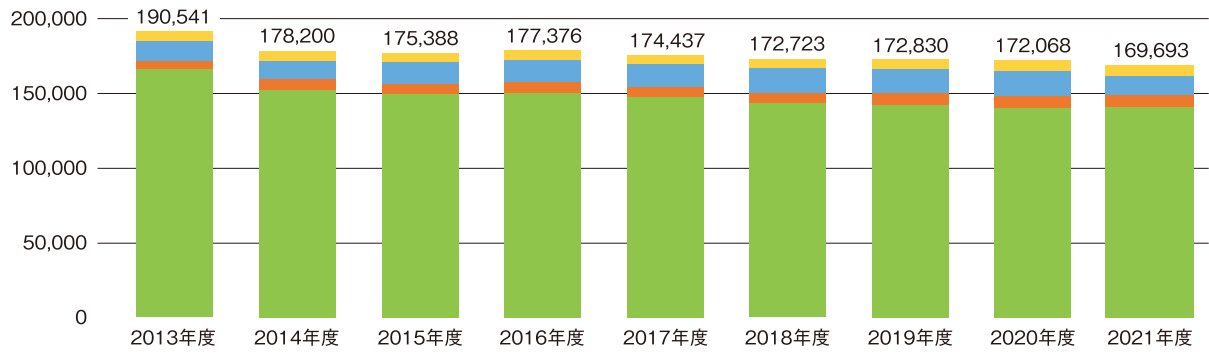
CO<sub>2</sub>排出量 ※単位:t



	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2020年度比
店舗事業	124,200	112,414	93,265	99,961	98,356	89,917	99,037	61,189	46,802	76%
宅配事業	8,552	9,640	9,145	9,139	9,289	8,860	9,530	8,157	8,376	103%
生産事業	15,561	14,605	17,298	15,128	14,670	15,052	15,375	11,772	6,045	51%
その他	7,088	7,809	6,134	5,913	5,731	5,490	7,837	7,053	7,083	100%
合計	155,401	144,468	125,842	130,141	128,046	119,319	131,778	88,171	68,306	77%
削減率	—	7%	19%	16%	18%	23%	15%	43%	56%	—

目標は2030年度までに2013年度比で50%の削減です。2021年度時点で56%削減しています。電気由来の排出量は調整後排出係数を用いて算出しています。2021年度の排出係数は未発表のため、2020年度の係数を用いて算出しています。

電気使用量 ※単位:千kWh



● エネルギー使用料(電気以外)

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2020年度比
重油(千L)	3,633	3,434	4,033	3,186	2,657	2,292	2,343	2,050	1,243	61%
灯油(千L)	1,778	1,725	1,704	1,817	1,808	1,670	1,500	1,406	1,331	95%
都市ガス(千m <sup>3</sup> )	1,006	979	1,154	1,358	1,324	1,285	1,359	1,394	1,446	104%
LPガス(千m <sup>3</sup> )	501	490	464	492	513	544	604	642	672	105%
軽油(千L)	1,956	2,097	2,189	2,228	2,216	2,198	2,284	2,409	2,468	102%
ガソリン(千L)	143	158	169	235	351	402	1,346	1,575	1,457	93%

2019年度からチャーター車両で使用した車両燃料も計上しています。

※端数処理を四捨五入により行っていることから、総量と内訳の計とが一致しない場合があります。

コープさっぽろの資源回収

コープさっぽろは、店舗や事業所、組合員家庭から出る資源物をエコセンターで回収しています。回収量は毎年増加しており、2021年度は38,208tの資源物を回収しました。これは24,383tのCO<sub>2</sub>削減に相当します。

● エコセンター回収量

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2020年度比
ダンボール	16,870	16,617	16,991	17,602	17,598	17,178	16,799	18,344	18,649	102%
紙パック	289	292	280	283	276	272	273	274	282	103%
週刊ドック	8,262	8,950	9,948	11,041	12,085	13,788	14,735	14,637	15,573	106%
新聞紙	976	975	983	1,000	954	906	893	704	815	116%
発泡	416	384	411	388	375	374	346	372	351	94%
ペットボトル	60	58	61	66	47	32	34	42	72	283%
スチール缶	30	27	18	24	16	14	12	14	17	514%
アルミ缶	44	44	46	58	68	62	55	60	61	102%
PPバンド	41	40	42	44	43	33	32	35	33	49%
内袋	128	125	117	116	116	123	123	119	119	28%
廃食油	726	773	813	854	866	878	901	933	911	98%
古着古布	—	21	671	728	747	838	970	1,184	1,324	112%
合計	27,841	28,306	30,379	32,203	33,190	34,499	35,172	36,718	38,208	104%

古着回収の売り上げを北海道ユニセフ協会に募金

宅配ドックの資源回収で古着回収を行い、その売上金のうち、150万円を北海道ユニセフ協会に募金しました。古着はカンボジアでリユースされるか、または、工業用ぞうきんにリサイクルされています。



組合員動態

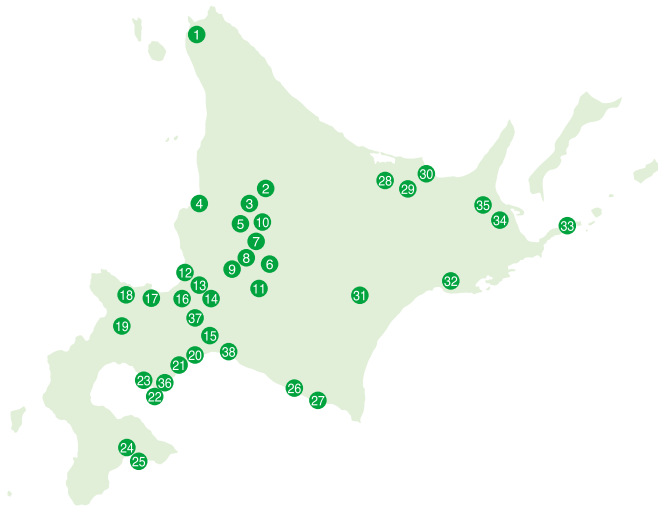
組合員数と組織率

組合員数(組織率)	総世帯数
1,921,098名(69.4%)	2,767,595世帯

組合員数は2022年3月20日現在の登録で表記しています。  
世帯数は2021年1月末の住民基本台帳を使用しています。

■都市別組合員組織率

1 稚内市	5,635名( 32.7%)	17,241世帯
2 旭川市	144,373名( 81.5%)	177,081世帯
3 深川市	11,483名(104.6%)	10,983世帯
4 留萌市	12,657名(113.2%)	11,181世帯
5 滝川市	17,827名( 84.1%)	21,189世帯
6 富良野市	11,650名(106.2%)	10,972世帯
7 砂川市	9,113名(104.2%)	8,747世帯
8 美瑛市	13,725名(122.1%)	11,241世帯
9 岩見沢市	39,241名( 94.9%)	41,350世帯
10 赤平市	6,716名(119.0%)	5,644世帯
11 夕張市	4,924名(112.8%)	4,366世帯
12 石狩市	24,745名( 89.2%)	27,747世帯
13 江別市	43,541名( 74.8%)	58,207世帯
14 北広島市	25,710名( 92.8%)	27,692世帯
15 千歳市	25,763名( 51.2%)	50,317世帯
16 札幌市	659,633名( 61.6%)	1,070,105世帯
17 小樽市	58,949名( 94.9%)	62,142世帯
18 余市町	9,641名( 99.9%)	9,651世帯
19 倶知安町	8,289名(109.9%)	7,540世帯
20 苫小牧市	69,971名( 78.3%)	89,385世帯
21 白老町	9,503名(103.4%)	9,194世帯
22 室蘭市	28,496名( 63.5%)	44,856世帯
23 伊達市	10,124名( 57.4%)	17,640世帯
24 北斗市	17,133名( 77.8%)	22,023世帯
25 函館市	115,797名( 82.4%)	140,595世帯
26 新ひだか町	9,712名( 84.7%)	11,465世帯
27 浦河町	8,783名(136.7%)	6,424世帯
28 遠軽町	11,606名(110.7%)	10,486世帯
29 北見市	48,168名( 78.5%)	61,329世帯
30 網走市	16,399名( 91.4%)	17,937世帯
31 帯広市	53,420名( 60.4%)	88,432世帯
32 釧路市	66,521名( 71.3%)	93,299世帯
33 根室市	8,312名( 68.3%)	12,166世帯
34 別海町	5,387名( 84.0%)	6,414世帯
35 中標津町	7,463名( 66.2%)	11,276世帯
36 登別市	17,879名( 73.4%)	24,362世帯
37 恵庭市	18,883名( 55.9%)	33,763世帯
38 むかわ町	4,342名(109.6%)	3,963世帯
表記以外の市町村合計	259,584名( 60.5%)	429,190世帯



■年度別組合員動態

年度	項目	組合員数(人)	前年比増加数(人)	増加率(%)	
				前年比	2016年度比
2016		1,654,657	58,532	103.7	100.0
2017		1,709,000	54,343	103.3	103.3
2018		1,762,681	53,681	103.1	106.5
2019		1,811,207	48,526	102.8	109.5
2020		1,868,534	57,327	103.2	112.9
2021		1,921,098	52,564	102.8	116.1

※2016年3月20日、住所不明・未利用者176名を法廷脱退処理しました。  
 ※2017年3月20日、住所不明・未利用者434名を法廷脱退処理しました。  
 ※2019年3月20日、住所不明・未利用者2,800名を法廷脱退処理しました。  
 ※2020年3月20日、住所不明・未利用者1,236名を法廷脱退処理しました。  
 ※2021年3月20日、住所不明・未利用者263名を法廷脱退処理しました。  
 ※2022年3月20日、住所不明・未利用者155名を法廷脱退処理しました。

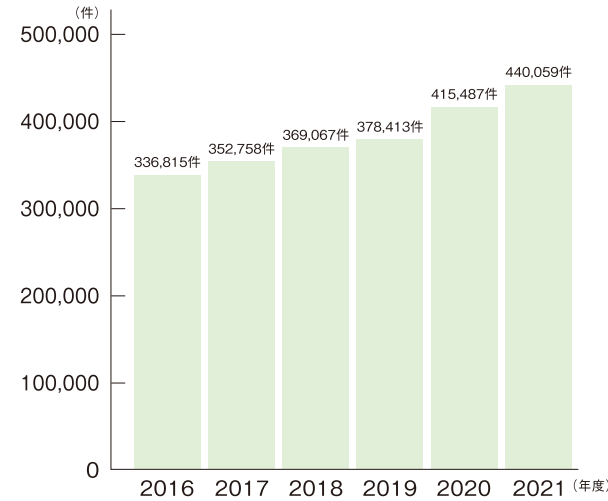
■札幌市行政区別組合員組織率

中央区	61,947名( 44.3%)	139,954世帯
北区	100,901名(66.9%)	150,737世帯
東区	74,371名(52.6%)	141,368世帯
白石区	82,335名(68.3%)	120,507世帯
豊平区	74,971名(60.0%)	124,908世帯
南区	66,362名(91.5%)	72,488世帯
西区	71,066名(63.2%)	112,479世帯
厚別区	42,164名(65.4%)	64,440世帯
手稲区	50,244名(73.2%)	68,639世帯
清田区	35,272名(66.6%)	52,949世帯

基本情報

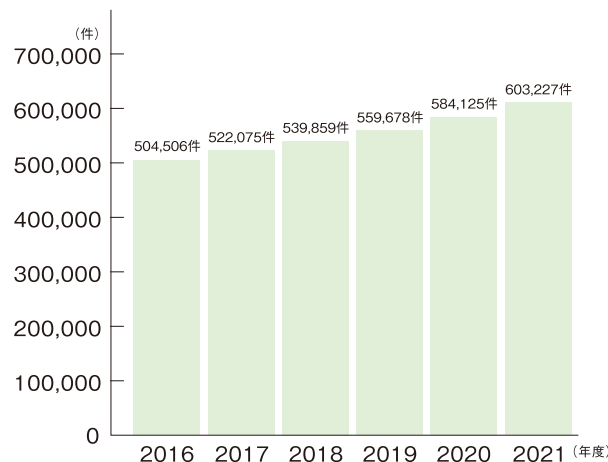
名称	生活協同組合コープさっぽろ (生活協同組合市民生協コープさっぽろを2000年に名称変更)
創立年月日	1965年(昭和40年)7月18日
創業年月日	1965年(昭和40年)10月1日
本部	札幌市西区発寒11条5丁目10番1号
役員(常務)	●理事長 大見 英明 ●専務理事 中島 則裕 ●専務理事 岩藤 正和 ●常務理事 米内 徹 (2022年3月現在)
活動エリア	北海道全域(定款)

資料 宅配(トドック)の登録者数



資料 CO・OP共済の状況

■共済4商品の加入者数



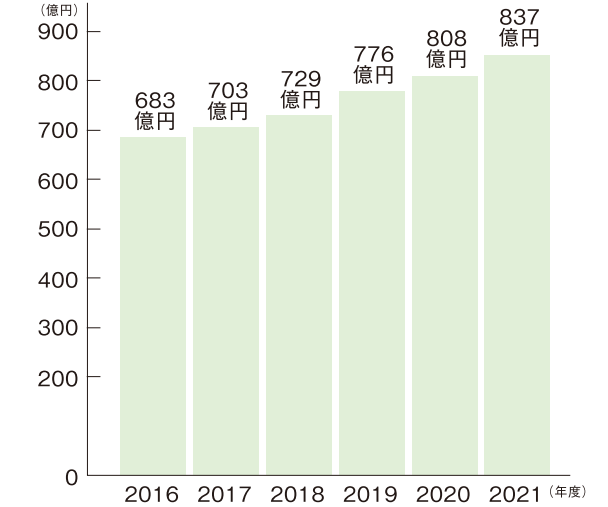
資料 出資金の状況

■年度別出資金動態

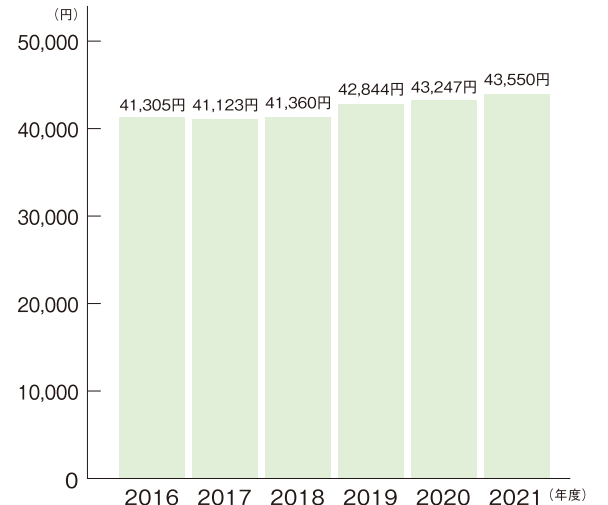
年度	項目	金額(千円)	前年比増加額(千円)	増加率(%)	
				前年比	2016年度比
2016		68,344,865	3,877,964	106.0	100.0
2017		70,278,859	1,933,994	102.8	102.8
2018		72,903,778	2,540,863	103.7	106.7
2019		77,599,550	4,779,828	106.4	113.5
2020		80,809,922	3,210,372	104.1	118.2
2021		83,674,043	2,864,121	103.5	122.4

※上記出資金額には千円未満の預り金も含めて表示しています。定款上の出資金(1口千円単位)は83,238,969千円となります。

■年度別出資金残高



■1人当たりの平均出資金



# コープさっぽろの取り組みが貢献するSDGs

【SDGs対比表】

コープさっぽろでは、「人・食・未来」を「つなぐ」ことを目標に毎年さまざまな事業を行い、SDGsすべての実現を目指しています。

取り組みのテーマ		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
人と人をつなぐ事業	宅配システムドック	P19												●	●			
	夕食宅配サービス	P19		●										●				
	移動販売車・おまかせ便ケル	P19		●										●				
	高齢者・独居世帯の見守り活動	P19		●										●				
	ひとり親家庭の高校生へ育英奨学金	P20	●		●													
	大学生育英奨学金	P20	●		●			●										
	職員奨学金返済支援制度	P20						●										
	大学生へ食品・日用品支援	P21			●													●
	動物園・水族館応援募金	P21			●										●	●		
	困りごとお手伝い・こまるとCOOP	P22												●				
	地域まるごと元気アッププログラム	P22		●										●				●
	コープの家族葬	P22												●				
	障がい者雇用	P22						●										●
人と食をつなぐ事業	スクールランチ	P05~07	●										●					●
	食べる・たいせつフェスティバル	P11			●									●				●
	コープさっぽろ農業賞	P23	●				●							●				
	畑でレストラン・畑でWedding	P24	●											●				
	高校生チャレンジグルメコンテスト	P24			●									●				
	自炊塾&アニマドレープロジェクト	P24			●													
	ラベルレスの水	P25												●	●			
	北海道純米吟醸酒ブランド「北乃覚醒」	P25												●				
	大物菜化プロジェクト	P26												●				
プライベートブランドなるほど商品	P26												●					
人と未来をつなぐ事業	マイボトルエコアクション	P08~10											●	●	●			●
	コープ未来の森プロジェクト	P11											●	●		●		
	店舗電力再エネ100%	P27					●							●				
	AI自動発注システム	P27						●	●									
	セミセルフレジ	P27						●	●									
	SDGs研究会	P28																●
	ドックステーション	P28											●					
	資源回収収益を子育て支援へ	P29		●	●								●	●	●	●	●	
	えほんがドック	P29			●													
	ドックフードキャラバン	P29	●	●										●				

## 事業所数と形態

### 本部

本部	1
地区本部	8(札幌、帯広日高、釧路、北見、苫小牧、室蘭、函館、旭川)

### 店舗

107店舗(2022年3月20日現在) 28市19町

札幌市	27店舗	留萌市	1店舗	中標津町	1店舗
江別市	2店舗	函館市	8店舗	北見市	3店舗
北広島市	2店舗	北斗市	1店舗	網走市	1店舗
石狩市	1店舗	苫小牧市	5店舗	遠軽町	2店舗
千歳市	2店舗	伊達市	1店舗	美幌町	1店舗
小樽市	2店舗	木古内町	1店舗	帯広市	2店舗
余市町	1店舗	幕別町	1店舗	室蘭市	2店舗
倶知安町	1店舗	むかわ町	1店舗	赤平市	1店舗
岩見沢市	2店舗	白老町	1店舗	別海町	1店舗
美唄市	1店舗	新ひだか町	1店舗	登別市	3店舗
夕張市	1店舗	浦河町	2店舗	恵庭市	1店舗
旭川市	6店舗	えりも町	1店舗	福島町	1店舗
深川市	1店舗	様似町	1店舗	羽幌町	1店舗
砂川市	1店舗	釧路市	6店舗	知内町	1店舗
滝川市	1店舗	根室市	1店舗	大樹町	1店舗
富良野市	1店舗	釧路町	1店舗		

### コープ宅配システムドックセンター

40センター10デポ(2022年3月20日現在)

### 移動販売車

95台(全道134市町村)

### 生産工場

江別生鮮加工センター

### リサイクル施設

エコセンター

### 葬儀場

直営式場2式場

フリーホールつきさむ／フリーホールしんことに

業務提携先式場16式場

ウィズハウス／香華殿

### 関係会社

株式会社エネコープ	デュアルカナム株式会社
株式会社ドック電力	コープトレーディング株式会社
コープフーズ株式会社	コープ協同保険株式会社
株式会社ドリームファクトリー	株式会社コープ・パートナーズ
北海道はまなす食品株式会社	株式会社中央スーパー
北海道ロジサービス株式会社	株式会社札幌駅立売商会
マテハンエンジニアリング株式会社	シーズ協同不動産株式会社
株式会社M・G建築	株式会社兼子
株式会社大雪水資源保全センター	有限会社光電社
株式会社コープトラベル	さくら食品株式会社

### 2021年度の新設

店舗	2021年 4月	しろいし中央店	宅配	2021年12月	函館東センター
	2021年11月	やまはな店		2022年 1月	名寄センター
	2022年 3月	しずない店(移転)			